

予測される2050年の社会

- 地域間の健康格差が拡大する
- 個人間の健康格差が拡大する
- 健康管理の方法や、人々の行動の様式が変化する
- 影響が地球規模に及ぶ健康課題が増加し、未曾有の事態や社会的脅威が予期せず勃発するおそれがある

公衆衛生看護の理念と使命

社会的公正を活動の規範とする／人々の健康増進と社会の安寧に寄与し公衆衛生の向上をめざす
社会の変化をいち早く把握する／全ての人々の健康事象を根拠に基づいて明確化・予測する／人々と環境に果敢に働きかける

公衆衛生看護の目標と役割

ビジョン：全ての人々が健康に暮らせる社会を目指して～健康格差の縮小と、健康危機への対応力強化を図る～

- 目標 1** 人々がコミュニティの健康づくりに貢献できるようにする
目標 3 地域の保健医療福祉を発展させる

- 目標 2** 社会的弱者を発見し、命と尊厳を衛る
目標 4 世界の公衆衛生看護に寄与する

国民の健康増進と社会の安寧に寄与することを目的とし、**日本公衆衛生看護学会が担うこと**



実践の基盤整備

- 公衆衛生看護技術の明確化
- 実践に基づくエビデンスの蓄積と発信
- エビデンスに基づく実践の推進
- 公衆衛生看護実践の場を拡充

教育の基盤整備

- 教育全般** ➢ 高度な実践能力を開発する教育の強化
- 生涯を通じた切れ目のない教育体制の整備
- 社会の変革に対応する人材の育成
- 基礎教育** ➢ 求められる専門能力を習得する教育の強化
- 看護基礎教育に積み上げる公衆衛生看護の基礎教育の強化
- 現任教育** ➢ 実践力と研究力を強化する人材育成の推進
- 管理・統括能力を強化する人材育成の推進
- 専門家認証制度の発展

研究の基盤整備

- 公衆衛生看護学の構築
- 公衆衛生看護研究の推進
- 実践者と研究者の協働による成果創出の推進
- 継続的質保証体制の構築
- 社会的認知の促進

グランドデザイン改定検討会メンバー

岡本玲子（大阪大学）、大木幸子（杏林大学）、松本珠実（大阪市）、持田恵理（群馬県大泉町）、奥津秀子（横浜市）、和泉比佐子（神戸大学）、大森純子（東北大学）、鳩野洋子（九州大学）